

あきる野市都市計画マスタープランの概要

I あきる野市の現況と課題

■ 現況と課題からみた改定の方向性

都市の「活力」

- 少子高齢化に対応した住み続けられるまち
- 交通基盤や未利用地等を生かした活力のあるまち

都市の「うるおい」

- 自然環境が保全され身近な緑が充実したまち

都市の「安全・安心」

- 安全・安心が強化されたまち

「市民参画・協働のまちづくり」

- まちづくりへの参加意識の向上、参画機会拡大など

■ 市民の意見・アイデア

まちづくり懇談会の実施

● 合同懇談会

(まちの将来像を議論)

「みんなで考える未来のあきる野」

● 地域別懇談会

(地域の将来像を議論)

「みんなで進める地域のまちづくり」

II まちの将来像とフレーム

■ まちの将来像の設定

まちづくりの理念

- 将来の都市政策に大きな影響を及ぼす課題の解決
- 地域資源を活用したブランド力の高いまちづくり
- 地域特性を生かした都市機能の向上
- 市民ニーズや参画に対応した地域づくり
- 他施策と連携した都市づくり

まちづくりの将来像

人・地域・自然とのつながりを大切にし、
安心して住み続けられるまち・あきる野

まちづくりの目標

- 本格的に進む少子高齢化に対応した住み続けられるまち
- 広域交通・都市交通基盤などを生かした活力のあるまち
- 自然環境が保全され身近な緑が充実したまち
- 安全・安心が強化された快適なまち
- 市民の参画による公共と協働のまち

■ 将来フレーム

目標人口
80,692人
(2030年)

■ 将来都市構造

拠点の構成

- 交流拠点
 - 秋川駅周辺
 - 武蔵五日市駅周辺
- 生活拠点
 - 東秋留駅周辺
 - 武蔵引田駅周辺
 - 武蔵増戸駅周辺
- 産業拠点
 - 秋川高校跡地周辺
 - 観光レクリエーション拠点
 - 十里木・長岳
- 緑と憩いの拠点
 - 秋留台公園、草花公園など

軸の構成

- 都市軸
- 交通軸

III 全体まちづくり方針（分野別方針）

土地利用の方針

- 住宅系市街地
- 集落地
- 農地
- 山林
- 複合市街地
- 商業・業務系市街地
- 産業系市街地

交通体系整備の方針

- 市街地の骨格をなす交通体系の形成
- 駐車場・自転車等駐車場（駐輪場）
- 鉄道
- 地域公共交通

産業のまちづくりの方針

- 新たな産業の立地誘導
- 商業・業務施設の誘導と商業環境の整備
- 農林業の推進

観光のまちづくりの方針

- アクセスや回遊性を高める交通施設整備
- 観光客や来訪者の滞在や交流の場の創出
- 観光客のアメニティ（快適性）の向上

公園緑地整備の方針

- 都市公園等の整備
- その他の緑地（地域制緑地）の保全
- 民有地の緑化
- 山林の活用・保全

環境まちづくりの方針

- 公共下水道等整備の促進
- 供給処理施設の維持・管理
- 水資源の節約と水資源システムの促進
- 地球温暖化防止への寄与
- 生物多様性の保全と活用

河川整備の方針

- 河川の水質向上と水量の確保
- 親水空間整備の推進

まちの景観づくりの方針

- 自然の景
- まちの景
- 集落の景
- 市民参加の景観づくり

防災まちづくりの方針

- 耐震・耐火のまちづくり
- 安全な避難、消防・救急活動がしやすいまちづくり
- 水害や土砂災害への対策

福祉のまちづくりの方針

- ユニバーサルデザインのまちづくり
- 子育て支援の環境づくり
- 誰もが利用しやすい交通手段の拡充

住宅整備の方針

- 良質で多様な住宅の確保
- ユニバーサルデザインの住宅づくり
- 住み続けられる住環境の形成

IV 地域別まちづくり方針

■ 地域の将来像

菅生・草花地域

自然と人々とのふれあい、安心して暮らせるまち

東秋留地域

活力とうるおいがある、身近な自然と共生するまち

秋川地域

自然と都市が共存し、市民の活動と交流がめぐるまち

増戸・引田地域

ゆったり暮らし、働き、自然と文化が共生するまち

五日市地域

自然と歴史を大切にし、過ごしやすく歩きたくなるまち

小宮・戸倉地域

豊かな自然と調和し、皆で暮らし楽しむあきる野の森

V 実現化方策

パートナーシップのまちづくり

- 各主体協働のまちづくりの推進
- 民間活力の導入促進
- まちづくりの担い手の育成・支援

地域のまちづくり

- 地域特性を生かした地域主体のまちづくり
- 地域主体のまちの運営・維持

計画の実現に向けて

- 評価と見直し
- まちづくりの具現に向けた取組
- 国土強靱化への対応